

事例②: 店をつくる

大分県中津市「ノーソンくらぶ」

地域の概要

大分県の旧耶馬溪町は、市町村合併により中津市に組み入れられた山間部に位置する集落

取り組みの背景

市町村合併の影響により、JAの売店が閉店し、徒歩圏内に食品や日用品を購入できる店舗がなくなってしまった

取り組み内容

有志のグループが中心となり、JAの売店跡地に地域住民からの共同出資を受け、店舗を開店した。店舗では、日用品の販売と共に、地域農産物の委託販売の仲介を実施している

実施のポイント

<取り組むための重要なポイント>

■運営組織の成り立ち

・元役場職員であった現事務局長ら10名が中心となり、NPO法人を立ち上げた。(立ち上げメンバーの中心には地域外の人も多い)現在では地域住民を中心に80名がNPO法人の会員になっている

■コスト削減

・店舗什器や内装を自作することでコストを削減した
・謝礼はできるが薄謝であるため、現店長のボランティア精神に支えられている部分も大きい

■地域住民の協力

・当初は、有志のグループの中心に集落外の間が多かったこともあり、なかなか住民の理解、協力を得ることが難しかった
・地域の農産物を直売する仕組みの窓口(仲介業務)を行うようになったことが、周辺住民の利用が大きく広がるきっかけとなった
・現在では、周辺の住民を中心に約80名が、運営するNPO法人の会員になっている。出資してもらうことで、積極的に店舗運営に参加してもらえるメリットもある

■他団体との連携

・農産物の直売をスーパーで行なっているNPO法人と連携し、地域の農産物を外部へ販売
・商品の仕入れはJAの売店であったときに取引のあった地元卸売業から行なっている

■進める姿勢

・考えているばかりではなく、まずは始めてみることで、走りながら考える姿勢も重要
・高齢者に自分たちの店として使ってもらえる店にしなければならない

<地域の拠点としての位置付け>

・店内にギャラリースペース、談話スペースを設置し、住民同士のコミュニケーションの促進を図っている
・設立して、約7年たつて地元の人々が動き出し、高齢者をあつめ、ノーソン内の談話スペースで弁当を食べてコミュニケーションを図るようなサロンを始めることになった

事例②: 店をつくる

大分県中津市「ノーソンくらぶ」

取り組みの課題

高齢な店長の後継者を育てなければならないこと

今後の発展

- ・地域を盛り上げる、コミュニティを強化していくために、地域に仕事を作り、地域に人を増やすこと
- ・地区で出来たものを外に対して販売する仕組みの構築。居住者を増やすためには、雇用を生むことが重要だと考えている

取り組みの体制

<地域住民とのかかわり>

- ・地域住民からNPO法人の会員として出資を受けている
- ・地元の人が動き出し、店舗を活用してサロンを実施することになった
- ・農産物の直売の窓口として、利用が促進されている

<他団体の協力>

- ・地元の卸売業から商品供給を受けている
- ・近隣のスーパーで農産物直売を実施するNPO法人との連携

■事業実施体制図

